

東北 VALUE SIGHT 宮城



一般社団法人東日本大震災FOREVERプロジェクト 理事長
荒井 隆是 (あらい・たかゆき)

1965年神奈川県鎌倉市生まれ。81年桐蔭学園高等学校入学。84年中央大学商学部入学。87年4月に同学部を休学し、ワーキングホリデーにて渡豪。88年4月に同学部に復学。89年同学部卒業後、株式会社富士銀行入行。96年1月に同社を退職し、経営コンサルタントとして独立。2001年7月株式会社トラベルカフェ（現インスタメディア社）創業。12年7月より一般社団法人東日本大震災FOREVERプロジェクト理事長。
一般社団法人東日本大震災FOREVERプロジェクト
<http://www.forever-net.com/>

東日本大震災で亡くなった人の思い出などをインターネット上で「寄せ書き」としてつづってもらい、その思い出を残された家族や友人などが共有していく、さらには未来の子どもたちに届けようというプロジェクトが始まっている。大切な人への思いをのせたこのプロジェクトが、遺族をはじめとした人々の心を少しでも安らかにしてくれるよう祈り、その取り組みを紹介する。

人が生きていた証を刻む 「東日本大震災FOREVERプロジェクト」

2011年3月11日「何かをしなくてはいけない！でも、何をしたいのか分からない。」日本人全員が思ったことだろう。しかし、人の数だけ違う考えが存在する。だから、きっと全員が賛同する答えは見つからない。ならば、自分が信じることをするしかない。

「FOREVERプロジェクト」のはじまり

私は数年前に友人の突然死を経験したのだが、その友人にはまだ小さい子供がいた。震災当時私は、その残された小さなお子さまの存在をきっかけとして、あるインターネットシステムを開発中だった。

私自身がもしあの場所にいたらと考えた時、自分の子供たちに伝えていない大切なことがあることに気がついた。何もかも流された後、それを子供たちに伝えることができる手段はないのか？それは生き残った友人が僕の思い出を子供たちに伝えてくれることだと考えた。子供達が大人になり、孫ができるまで朽ちない寄せ書きを、遠くにいる友人がいつでも書ける寄せ書きを、思い出したらいつでも追記出来る寄せ書きをと、それは突然死のお父さんのためにまさに開発していたシステムそのものだった。それが2010年11月2日に商標申請していた「FOREVER」である。

人が生きていた証を刻む

当時、共同研究をしていた東北大学准教授若島先生に「FOREVER」の存在を説明し、取り組むことの是非をご相談した時に頂いたお言葉である。「私は東日本大震災で心理支援をさまざまな立場で行っています。さまざまなものが失われました。ある人は家族を失い、ある人は家や思い出の記録を失い、ある人は職を失いました。心理の専門家とし

て、援助に携わる中で、自らの無力さに愕然としながら、できることを一つ一つ続けている毎日を送っています。さまざまなものが失われたことに対して、私たちができることは何なのか。家族を失った方に私たちができることは何か。それを毎日考えているところです。そのような中、フォーエバー・プロジェクトについて知ることになりました。失われた人がこの世に確かに存在していたという証、その人が生きて人々に与えていた意味、それが生きている私たちに共有されることこそが私たちにできることの支援ではなかろうか、そのように考えるようになりました。私たちに必要なことは、失われたものの回復だけでなく、生きて証であるヒストリーを取り戻すことです。生命は意味、そしてヒストリーを必要とするのです。それが究極的なこころの支援です。」

インターネットシステムの枠を超えて

このプロジェクトのことを詩にして、ビクターエンタテインメントへ届けた。

その時ビクターエンタテインメントの栗原ラボ長に頂いたお言葉の抜粋である。

「人が生きていた証として、その人が残したストーリーが、その人を知る人たちによって、集められ、その人のヒストリーとして、完成されていくこと、そしてそれが後世まで残されること。家族すら知らなかったような温かい話が、出てくるかもしれません。これこそ、時代が必要とするちょっと素敵な心の支援ではないでしょうか？感動を与えるレコード会社の一人として、また一個人の使命として、かかわる

べきプロジェクトだと思っています。」

現在この詩は楽曲として完成し、「FOREVER第一楽章」として発売されている。

「人が出逢う それは奇跡 共に歩む それは運命 この街で 一緒に生きた その証を 僕は刻みたい 海辺の路を 歩きながら 夢に描いた 将来(あした)のこと かけがえのない その愛を 彼女の命を 伝えたい それが 僕の誇りと思うから forever 永遠に forever 未来に forever 永遠に forever 未来に」

ビクターは「FOREVER」の存在をFM仙台に伝えてくれた。その結果、FM仙台は「FOREVERプロジェクト」という番組を毎週月曜日の昼12時のレギュラーとして立ち上げてくれた。

最初の収録にゲストで参加した私は、鈴木プロデューサーの「あなたがパーソナリティーを務めて下さい」とのお言葉で、1年間FM仙台に通うことになった。

この番組から「震災で気づいた役立つ知識・知恵・情報」というホームページが誕生し、東北大学災害科学研究所所長平川教授を審査委員長に、「防災グッズベストチョイス」も立ち上がった。そして、番組内での会話が本となって出版されることにもなった。

「FOREVER」が語り部となることを信じて

以上の通り2年間の活動記録を辿ると、多くのことをしてきたが、今思うことは、

「時計の針は2011年3月10日に戻せない」という無力感だ。100年以上先の未来の日本、東日本大震災を体験した人々がこの世を去った時、FOREVERプロジェクトが語り部となって、子供たちを守ってくれることを信じて、活動を続けていこうと思う。

最後に、つくば国際大学高橋教授に頂いたお言葉をご紹介します。

「亡くなった方への思いは、なかなか表立っては語れない現状があります。もう一度会いたい。もう一度触れたい。もう一度抱きしめたい。もう一度声を聞きたい。そんな恋しさや愛しさを募らせながら、日々が流れて行きます。大切な人を亡くした時に、人はよく『悲しいことは忘れて前へ進みなさい』と言います。けれども、その人が大事な人であればあるほど忘れることなどできないのです。Forever Projectはそんなご遺族達の「永遠の思い」をサポートするプロジェクトです。永遠の思いを紡ぐこと。それはきっと大事な人との間を結ぶ一つの形になることでしょう。」



「FOREVER」プロジェクトに込められた思いが楽曲となり、「FOREVER第一楽章」として完成した。